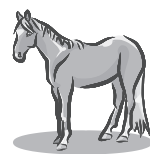


6月10日(日) 八街市は山田台にある『コルザホースクラブ』にて、乗馬体験に参加しました。

この大会は、馬術競技、パラ馬術、ホースセラピーの普及活動を目的としています。また「掘り起こし事業」では、様々な障害のある人を対象に、この経験を通じて馬術競技への関心を引き出すと共に、有望選手を発掘し、併せてその後の活動を可能にする環境作りを行うための調査も目的としています。

育成会からは、小学生から中学生の男子3人が、家族と一緒に参加しました。



受付を済ませると、まずはフィジカルチェック。ここでは、安全に乗馬をする為に必要な股関節の可動域と柔軟性を確認します。馬の背には鞍ではなく毛布を乗せて、その上に座ります。背中動きや温かさ、生命力を直に感じます。生き物との一体感、高揚感が癒し効果に繋がるとされているようです。姿勢の保持や日常生活動作に必要な身体の使い方の改善にも良い刺激と効果があるそうです。



初乗馬にワクワク・ドキドキ

して1分くらいでしょうか。体験後も満足そうに落ち着いていました。こうした体験前・中・後の様子も丁寧な聴き取りがありました。

ランチタイムは、アウトドア気分いっぱいキツチンカーから、タコライスとカレーライスのどちらか好きなほうを選んで美味しくいただきました。

障害のある人も無い人も、2年後の東京オリンピック・パラリンピック、この世界的な大会と一緒に楽しみ、盛り上げていけたら素晴らしいと思います。(理事 石橋)

育成会のうごき 7月～10月

7月2日	平成30年度養護教育センター運営協議会
3日	千葉県障害者社会参加推進協議会
5日	千葉県手をつなぐ育成会 県大会
11日	千葉県地域自立支援協議会全大会
11日	中央区第102地区民生委員児童委員とのお話し会
8月21日	千葉県へ要望書提出[本誌 P. 1]
30日	千葉市民生委員児童委員協議会研修会[本誌 P. 1]
31日	千葉県知的障害者相談員研修会
9月4日	「計画相談、サービス等利用計画&モニタリング」研修会[本誌 P. 2]
9月5・7・11・25日	各区おしゃべり会
14日	第52回関東甲信越大会川崎大会[本誌 P. 3]
18日	大宮学園家族支援ワークショップ[本誌 P. 2]
19日	心の輪を広げる体験作文、障害者週間ポスター審査会
28日	「まんま隊」ファシリテーター養成講座
10月6日	第21回ワークホームまつり
7日	乗馬体験(コルザスポーツクラブ)[本誌 P. 4]
13日	でい・まさご祭り
20日	ハロー・でいさく2018(ソーイング部出店)
20日	関東甲信越ブロック手をつなぐ育成会連絡協議会代表者会議
25日	「発達障害者へのライフステージを通じた支援」研修会(研修部)
31日	千葉県拠点の福祉避難所運営訓練

ご報告

西日本豪雨災害義援金のご協力ありがとうございました。
47万9000円を全国手をつなぐ育成会に送金しましたことをご報告いたします。

お知らせ

「でい・さくさべ」隣接地に「じよぶ・さくさべ」が開設され、10/1シフォンケーキの店「ブーランジェ」がオープンしました。クリームパン、バウンドケーキも販売します。お近くにお越しの際は是非お立ち寄り下さい。

編集後記

◆息子が二十歳になったので、障害者年金申請の申立を書きました。成長履歴を「この子の記録」にも記していたのであせらず書けました。診断書もそろそろ出来上がるはず。後は息子に適切な決定がですように。(前田)

◆私が怪我をして、娘の入浴と食事介助で初めてヘルパーを利用しました。日替わりのヘルパーさんに不安もありましたが、娘は気にする様子もなく皆に可愛がってもらいました。これを機にヘルパーさんと過ごす休日に挑戦させてみたいです。(村田)

皆様の思いを…

8月21日(火)に平成31年度予算編成および障害福祉計画に関する要望書を千葉市に提出し、回答をいただきました。

1. 地域生活支援拠点の整備

地域生活支援拠点は、地域の事業所同士の連携が重要。行政主導で、事業所が連携してこの事業に早急に取り組めるようお願いします。

【回答】

現在、地域生活支援拠点を含めた相談支援体制の見直しを進めているところ。障害者やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、拠点、委託相談、計画相談、それぞれの役割を定め、障害者の地域生活の支援体制を整えて参ります。

2. 計画相談の充実

相談支援専門員不足等によりモニタリングの実施はまだ不十分。高齢化への支援にあたっては介護保険に移行する際に、制度間の隙間が生じないよう、相談支援専門員のスキル、知識を高めるための育成等も重要。相談支援専門員の増員、人材育成をお願いします。

【回答】計画相談支援の充実に向け事業所に参入を呼び掛けており、本年4月の市内相談支援

事業所数は86か所と、昨年と比べて12か所増加。しかし相談希望者数の増加と事業所数の不足は認識している。今般の報酬改定で適切な体制整備を図っている事業所において、独立採算が可能となる報酬体系となったことから、既存事業所の質の向上を促し、幅広く事業の参入を呼び掛けてまいります。

3. 日中サビス支援型グループホームの整備

本年4月から、共同生活援助の新たな類型として、「日中サビス支援型グループホーム」が創設され、地域生活を送る重度障害者が利用できる緊急一時的な、短期入所の併設を義務付けている。日中サビス支援型グループホームが地域生活支援拠点事業と連携する体制の整備をお願いいたします。

【回答】現在、指定に向けた相談を複数の事業所から受けている状況。指定した場合は事業の実施状況について、自立支援協議会と連携していく。設置される短期入所の利用は、緊急時における重度障害者の方のみに限定されるのではなく、通常の短期入所にも供されるものとなっています。

(会長 島田 貴美代)

千葉市 手をつなぐ育成会だより

第158号
平成30年(2018)11月8日
千葉市手をつなぐ育成会
会長 島田 貴美代
千葉市稲毛区作草部2-4-5
TEL・FAX 043-206-4050
✉ chiba-chibahands@dance.ocn.ne.jp

～地域で 生きる～ 育成会 啓発活動

8月30日(木)、きぼーるにて行われた、千葉市民生委員児童委員協議会障害者児福祉研究部会、社協・中央保健福祉センター所長・民生委員・社会福祉士養成課程実習生の皆様に、育成会の活動内容と知的障害の特性を説明させていただきました。

障害がある方も、グループホームやアパートなど地域で暮



きぼーるにて



中央区第102地区にも
呼んでいただきました

(副会長 長谷川)

知っているようで知らない もう一度おさらいしませんか？



西沢 将行氏

9月4日(火)、でい・さくさべ会議室にて、茨城県神栖市障がい福祉課にお勤めの社会福祉士、西沢将行氏を講師にお迎えして、さまざまな暮らしの命綱「計画相談・サービス等利用計画&モニタリング」の研修会が行われました。参加者は48人でした。

①制度の目指すもの

▼わが街に住んでいる障害福祉サービス等を利用するすべての人に、時には近くで深く寄り添い、時には遠くから見守ることのできる相談支援専門員が近くにいる体制を整えること。



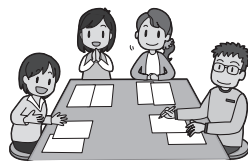
②相談支援専門員とは

福祉サービスなどの情報を広く提供し、必要なニーズをアセスメントし、計画に沿って複数のサービスを調整

し、提供してくれることが大切です。しかしながら、駆け出しの制度なので、相談支援専門員も発展途上です。数は増えましたが、研修制度も市町村でまちまちとなっており、力量のばらつきや質の担保が課題となっています。

③アセスメントとモニタリング

サービス等利用計画(案)を作成するためには、アセスメントという作業が必要になります。



基本的には自宅で面接し実施するもので、これを電話で済ませる事業所は除外したほうがいいでしょう。

本人の課題だけを強調せず、強みを知らうとする姿勢は、支援員のテクニクとして必要なものです。

通り一辺倒な聞き取りではなく、保護者や本人の思いも聞き取ることが求められます。

このようにして作成されたプランが適切か、見落としがないか確認するのがモニタリングであり、これを継続することで、プランの精度を上げることが本人の生活の質の向上につながるのです。

④サービス担当者会議

相談支援専門委員、通所している事業所、ヘルパー、行政など、本人の関わっている人を集めてサービス等利用計画(案)を点検します。関係機関との足並みや役割分担を確認して行くことが必要であり、お互いが顔の見える関係を作る上で大事な会議です。

⑤相談支援専門員への期待

トータルサポートの窓口であり、ライフサポートの一環、障害児者の生涯

先輩ママさん 教えて下さい！

9月18日(火)、まんま隊の協力で大宮学園にて家族支援ワークショップが開催されました。29人の参加でした。

グループごとに、父親との心に残ったエピソードを思い出しながらの自己紹介、そして、お散歩や公園遊びでの子供との関わり方などを話し、皆さん明るい表情で、自分の思いを語り合いました。また、ファシリテーターの方の経験談に引き寄せられ、話しが弾んでいきました。

経験談の中で「傷つき、立ち直り、たくましくなる」子供と一緒に成長



明るい雰囲気の中で

に渡っての伴走者ではないでしょうか。支援の目的は矯正することではありません。本人を変えるよりも、環境を変えることが大事で、相談員の腕の見せ所です。

(広報部 野口)

でき、年月が経つと母も変わる」といったお話はとても心に響きました。参加された方一人一人が自身身を振り返ることができ、有意義な時間になりました。7人のファシリテーターの皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

(理事 石井)

第52回 関東甲信越大会 川崎大会 これからも ここで暮らしたい

手をつなぐ育成会関東甲信越大会が9月4日(金)川崎日航ホテルにて開催されました。千葉市手をつなぐ育成会からは理事・会員18人と本人1人が参加しました。午前中は2つの分科会が行われました。

●第1分科会 「働く」

「新しい働き方の選択肢を探る」NPO法人ビープルデザイン研究所代表理事・須藤シンジ氏は、「障害者の働き方はひとつじゃない」と、Jリーグ川崎フロンターレの試合等、スポーツや音楽などの領域で健常者と混ざり合いながら「意識と心の中」のバリアフリーを実現するため、各種イベントをプロデュース。可哀そうよりかっこいいを、隠すことより出す！ことで表舞台に出ていくことを目指す。



熱く語るシンポジスト

東京大学・准教授の近藤武夫氏は、「新しい働き方をデザインする」と題して「超短時間雇用IDEAモデル」を提唱。超短時間勤務で最低賃金を保障する施策への取り組みは、(株)ソフトバンク、川崎市、神戸市で延べ33企業62部署で実施。職務定義のない日本型雇用は多様なことが求められ、そこが大きな壁になっている。職務を明確に定義することが大事と話されました。

(副会長 土戸)

●第2分科会 「高齢」

「親の支援なきあとの障害ある人の生活を考える」

「高齢になっても、ここで暮らすために」をテーマに福岡 寿氏(長野県自立支援協議会会長)の講演の後、佐藤嘉晃氏(社福)大田幸陽会参与)からは、暮らし方の一つの事例として、サービス付き高齢者向け住宅の説明が

あり、田中正博氏(全国手をつなぐ育成会連合会統括)、又村 あおい氏(全国手をつなぐ育成会連合会政策センター委員)を交えたシンポジウムが行われました。

長野県で実践されている「行つてみてやつてみて委員会」は障害のある本人の意思を尊重し、ライフステージに合わせた選択を繰り返し支援していく取り組みで、障害のある我が子が自分らしく人生を楽しんで生きていくために必要な仕組みだと感じました。

また、「親なきあとの我が子の暮らしを本気で考えてくれる伴走者(相談支援)を見つけておく」というアドバイスが印象に残りました。

午後にはミュージア川崎シンフォニーホールにて、大会式典と全国手をつなぐ育成会会長、久保厚子氏より、中央情勢報告がありました。

後半は、ソプラノ歌手、高橋薫子氏、ピアノ、河原忠之氏による記念コンサートがあり、優しい歌声に浸り、最後は会員と共に「故郷」の大合唱で幕を閉じました。

本人大会

本人大会に親子で参加しました。朝、JR川崎駅西口は、オレンジ色のTシャツ(川崎市育成会と印字)を着たスタッフの方々が大会の案内ボードを持っていましたので、迷うことな



今回、私の方は、当会が2年後に担当する関東甲信越大会に向けて色々参考になる一日でした。一方、息子の方は、閉会後の懇親会で食べたお寿司などの美味しい料理が、一番印象に残ったようです。

(副会長 佐久間)